

心宗活居士、野田山に葬られた。

オクムラナガトミデン 奥村永福傳 一册。奥村伊豫守永福の傳記で、野田山に建てた神道碑の文に同じい。木下貞幹の撰で、錦里文集にも載せてある。

オクムラナガトミノツマ 奥村永福の妻

尾張宮の住人加藤興三郎の娘であり、末森の戦に勇名を顯した。そのことは野田山の碑文に、『天正十二年九月。成政猝率大兵襲末森城。急攻一日一夜。城將陷者數矣。内子加藤氏持長刀。率侍女。巡城指衝。皆感激勇氣百倍。』とあり、家譜には『永福室加藤婦人。使婢僕煮粥以扶士卒之飢。或自輜之。』と見え、異本末森記には、『末森の城中に嘗て吞水なかりしかば、奥村氏の内室種々才覺せられて、とすいの下。を掘りせけるに、水多く出でたり。其水を以て食物を調へけるに、其水ごみくさくて、食物等調へ難く叶はざるに、内室の工夫にて、こしきを立て蒸しけるに、くさみ去りて清水と成りたり。その外種々工夫致され、諸人勇みけるとぞ。』と記されて居る。

オクムラナガノブ 奥村尚寛 加賀藩の老臣奥村氏宗家の第十代。實は支家奥村主水隆振の次男。寶曆七年出生。幼名橋次郎、後助右衛門。明和元年十二月榮輪の末期養子となり、二年二月十六日遺知一萬七千石（内十五百石與力知）を襲ぎ、安永六年十二月十八日從五位下河内守に叙せられた。天明六年正月廿三日尚寛はより先久しう病んで勤仕を缺いたから、本知の内五千五百石を減せられたが、七年七月朔日に至つて舊に復せられた。享和三年十二月廿四日四十七歳で歿。法號尚

寛院愼齋靜甫居士。野田山に葬られた。尚寛は字を白羽、號を愼齋又は石臺といひ、程朱を尊崇し、窮理の學を事とし、嘗て鄙陋瑣言・蠡海餘瀝・石臺文集等を著し、又周易を新井祐登に受け、頗る其の幽を剛いて、古周易經解略・奥村新井問答がある。又寛政四年明倫堂の設けられた時總奉行を命ぜられ、計畫する所甚だ多かつた。時に讃岐の人溪世尊加賀に來り、紫陽の説を唱へたが、尚寛は世尊の爲人を信じ、禮を厚くして存問し、疑を質す所あつた。所謂百年談はその俗談である。尚寛の著にその他和歌に一樂集があり、法制に袖裏雜記・袖裏規矩鈔・袖裏見聞録・袖裏愚考がある。

オクムラナガヒサ 奥村修古 加賀藩の老臣奥村氏宗家の第八代。實は支家奥村内記温良の次男。享保八年出生。幼名小源太、後助右衛門。十四年八月奥村織部自逝の末期養子となり、知行二千五百石（内五百石與力知）を賜はつたが、元文二年七月四日更に宗家内匠有定の末期養子となり、遺知一萬五千石（内千五百石與力知）を受け、前知の中五百石を除き、殘二千石を本高に加へて一萬七千石（内千五百石與力知）を領し、次いで寛延元年十二月廿一日從五位下丹後守に叙せられ、三年八月廿一日廿八歳を以て歿。法號東嶽院來章文英居士。野田山に葬られた。

オクムラナガマサ 奥村榮政 加賀藩の老臣奥村氏支家の第三代。榮明の嫡男。天正十八年越中放生津に生まれた。母は山崎長鏡の女。通稱勝兵衛・玄蕃・河内。慶長八年利長祿一千石を賜ひ、元和六年父榮明歿したるを以て、利常命じて世祿一萬三千六百五十石を襲

がしめたが、承應元年醫寮を求めて京に上り、八月十四日六十三歳を以てその地に歿。永昌院竹巖宗清居士と號し、野田山に葬られた。

オクムラナガモト 奥村長元 通稱周防・源左衛門。彌左衛門の次子。初め前田利家に召出され、利政に屬し、大聖寺陣に於いて兄采女が戦死した後、その士卒を率ゐて歸陣し、遺知五千石を襲ぎ、又利常に大坂兩役に従ひ、公事奉行に任じ、慶安三年正月歿した。

オクムラナガヨ 奥村永世 大聖寺藩士。通稱喜代太郎・助左衛門。字は貞幹。記性あつて、領内の故事舊蹟に通じ、弘化二年藩國見聞録を著した。萬延元年八月四十九歳を以て歿。

オクムラナガヨリ 奥村榮頼 永福の子。初め三郎兵衛といひ、後に攝津と改めた。人と爲り敏慧、才辯衆に拙で、前田利長・利常二世に歴事し、次第に祿を増して八千石に至り、特に利常の襲封以後その重用する所となつた。老臣横山長知の一たびその地位を失うたも、亦榮頼の陥る、所となつた爲であるといはれる。既にして大坂陣の起るや、長知亦來り仕へたから榮頼の心中大に平ならざるものがあつた。この役榮頼戦に臨んで兄榮明の言を用ひず、十二月四日眞田丸に迫つた時にも、輕躁の舉動があつた爲漸く疎せられるに至つた。元和元年の再役には從軍せず、同年冬途に藩を退き、幕府に訴ふるに藩の祕事を以てしたが取上げられず、寛永八年四月四日途に京都に在つて歿した。

オクムラナホウチ 奥村直氏 通稱造酒丞・十郎左衛門。初代十郎左衛門の子。元祿四年外作事奉行から諸職を經、正徳三年二條吉忠

夫人榮君附の物頭並となつて百石を加へ、計三百五十石を領し、享保十五年御免、二十年正月十五日七十二歳で歿した。

オクムラナハル 奥村直温 加賀藩の老臣奥村氏支家の第十三代。惇叙の次男。天保二年十月五日出生。母は横山山城守隆盛の女。初名伸次郎、後内膳。初諱有藏。弘化三年十一月廿五日遺知一萬二千石（内二千石與力知）を受け、元治元年五月七日享年三十四を以て歿した。法號慈徳院。野田山に葬る。

オクムラナホウキ 奥村尚之 通稱勝五郎・源左衛門。寛政二年父監物匡之の遺知二千七百石を襲いだ。享和二年奏者番となり、文化元年石動等支配に任じ、六年免除、文政七年出銀奉行を命ぜられ、天保五年致仕して本高の中五百石を隱居料とし、十二年歿。尚之は字を徳風、號を藍濤、別號を鑑水亭といひ、富田景周に學んで詩文を能くした。

オクムラナリカタ 奥村成象 加賀藩の老臣奥村氏支家の第九代。實は奥村輝正忠順の嫡子。元祿十六年出生。通稱内膳。先代熙康に子がなかつたから、延享四年二月十五日成象にその遺知一萬石（内二千石與力知）を賜ひ、寛延二年三月廿七日享年四十七を以て歿。法號海境院水源無底居士。野田山に葬られた。

オクムラノリトモ 奥村則友 加賀藩の老臣奥村氏支家の第十五代。惇叙の三男。天保十三年正月廿三日出生。母は横山山城守隆盛の女。初名外典吉、後他見男と改めた。明治二年六月十八日遺知一萬二千石（内二千石與力知）を受け、藩政變革の時を経て、二十年十月九日歿、享年四十七。法號萬機院。野田山